

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105214号		
法人名	社会福祉法人 鶴陽会		
事業所名	グループホーム あけぼの		
所在地	〒891-0104 鹿児島市 山田町 2019番地 (電話) 099-264-6600		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年3月7日

【情報提供票より】(平成21年 2月10日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤13人, 非常勤4人, 常勤換算15.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2階建ての 1 ～ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	24,000
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	5名	要介護2	11名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 87.1 歳	最低 74 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大勝病院、入来クリニック、丸谷歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同じ敷地内に特別養護老人ホームやケアハウス・乳児院があり、同世代の交流や乳幼児たちとの交流の機会がある。町内会に加入し、地域の運動会や文化祭に参加したり、消防・避難訓練も地域の協力体制ができています。職員は外部研修会に参加したり、内部研修会に毎月テーマを決めて取り組んでおり、サービスの質の向上を目指している。管理者や職員間もチームワークが取れていて、利用者の意向や体調に配慮しながら、利用者本位のケアに取り組んでいる。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	問題点や改善点を運営推進会議や管理者・職員全員で話し合い、改善への取り組みがされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、一人ひとりが自己評価に取り組み、何日かに分けて話し合いを行ない評価をまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に行い、外部評価の報告や災害対策・感染予防対策等についての意見交換やアドバイスを受けながら、充実した取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、便りを出して生活の様子や健康状態等について報告している。季節ごとに新聞を発行して行事的様子や職員の異動等について知らせている。また、面会時には、家族の意見や要望を聞き、その内容について話し合い、運営に反映できるように取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入していて、地域の運動会・文化祭・ゲートボール等に参加し、地域との交流を図っている。ボランティアや高校生の体験実習の受け入れも行い、日常的に地域の方々との交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員の話し合いで理念の見直しを行なった。地域との交流を図りながら、地域密着型サービスとしての理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者も職員も理念を共有し、朝の申し送り時に、唱和している。常に理念をもとに日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の運動会・文化祭・ゲートボール等に参加し、地域との交流を図っている。ボランティアや高校生の体験実習も受け入れ、日常的に地域の方々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	何日かに分けて話し合いを行なった。評価の意義を理解し、改善点などについては見直しを行い、取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族等の代表・地域包括支援センター・民生委員・町内会長等に参加してもらい、ホームの状況や報告・意見交換などを行ない、サービスの向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの情報交換を行ないながら、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の便りや季節ごとの新聞を発行して、生活の様子等や新しい職員の紹介もしている。また個々にあわせて連絡をしている。金銭管理は行なっていないため、散髪代等の立替分のお知らせもしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年二回行なっている。面会時に声かけを行い要望などを伺っている。運営推進会議に参加してもらい、そこでも意見を聞き支援に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員と利用者の馴染みの関係ができるまで、担当の職員と一緒にケアを行ない、受け入れはスムーズにできている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会に参加したり、ホームの勉強会等もテーマを決めて毎月一回定期的に行っている。職員の資格取得にも協力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区グループホームの協議会に参加している。ホームの相互訪問や情報交換等を行いサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族をホームに招いて、職員や他の利用者に馴染めるよう家族と相談しながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い頃の話の聞いたり・梅干・高菜の漬物・洗濯物のたたみ方等を教わりながら、人生の先輩であるという考えを職員が共有し、お互いに支え合う関係作りを築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人や家族に声をかけながら、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、職員が申し送り時や終礼時に話し合いを行い、ノートに書きとめて検討したりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聞いたり、職員間で話し合いをしながら、介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当学会議を行ない、状態の変化が生じた場合や必要時には、本人・家族・職員と話し合いを行い、検討や見直しが行なわれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望や状況に応じて、墓参りや通院介助等、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が定期的に回診して、薬や診察・検査を行い、歯科医も訪問診療を行なっている。他科受診は家族が行なっている。家族に連絡を取りながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	関係者で話し合いを行い、ホームの方針を決めている。ホームとしては本人・家族と相談しながら、全職員で方針を共有している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ等の声かけは、さりげなくプライバシーに配慮するように、また記録や個人情報の取り扱いも徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や朝食時間は本人ペースで行なっている。基本的な一日のスケジュールはあるが、一人ひとりのペースを大切にしながら、利用者の思いを汲み取り支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事の準備や調理を行ない、同じテーブルで話をしながら食事をしている。また、片付けも一緒に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に午後からの入浴である。毎日、入浴する人もいる。入浴嫌いの人には、工夫したり家族の協力を得て入浴している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や買い物等について、利用者一人ひとりの役割や、畑仕事やテレビ観戦・新聞を見る等の楽しみごとの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩・近くの乳児院や老人ホーム等へ、利用者の希望にそって、日常的に外出の支援を行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることへの弊害を理解している。日中は職員が目配りや気配りを行ない、鍵をかけないケアを行なっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回、町内会の協力をもらいながら、夜間想定や消火器の使い方等の消防・避難訓練を行なっている。災害時の備蓄も準備している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行なっている。栄養士が栄養バランスにも配慮した献立を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は広く明るいリビングでゆったりと過ごしている。玄関・フロアには花を飾ったり、季節を感じる飾り付けをしている。美化委員会やレクリエーション委員会があり、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖簾・テレビ・たんす・家族の写真・椅子・テーブル・時計・マッサージ器等、本人の好みのものを活かして、居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式 1）を添付すること。